

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800907		
法人名	名谷ホーム有限会社		
事業所名	グループホーム わたつみの里		
所在地	神戸市垂水区陸ノ町994-1		
自己評価作成日	令和2年1月12日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>少人数のユニットなので職員が目が行き届くようにしている。また、立地条件が優れているので散歩や買い物に行きやすいので支援している。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2870800907-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>見晴らしの良い、高台の住宅街にある2ユニットのグループホームは、駅や商店街から近く便利な環境である。徒歩圏内に医院やスーパーなどがあり、今はコロナ禍で外出が困難になっているが、昨年までは毎日散歩に出かけていた。1階のスペースは仕切り板を手作りし、人数を制限しながら家族と面会ができるように工夫している。管理者と職員、職員同士のコミュニケーションは良好で、意見や要望が出しやすい。定職率が高く、職員が働きやすい事業所である。コロナ禍でいろんな制限があるなか、アイデアを出し合い、理念にもある利用者・家族を主役にした、今できる支援を実践してもらいたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下に理念を掲示して、会議の時に覚えてもらっている。	開設当初から策定された事業所理念が各ユニットの入り口に掲げられ、2か月に1回行われる職員会議の中で管理者より説明を行っている。利用者の主体性や利用者の生活史を大切に する思い、地域に開かれた風通しのよい事業所運営を目指し、 管理者と職員は、理念の実現に向けて日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会・民生委員方達と交流している。	事業所として自治会に加入し、地域で行われる「餅つき」や「七夕まつり」「敬老会」などへ招待を受け参加している。現在は、 新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域行事が軒並み 中止している。また、民生委員との関りのなかで地域の小学校 との交流会にも参加した事例がある。習字やフラダンス、カラ オケを実施されているボランティアとの交流も現在は行なわれて いない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会・民生委員方達と交流している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などを取り入れサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、現在は、地域包括支援センター職員や民生委員、利用者家族や利用者、他事業所の職員全メンバーが集まった開催は行えていない。現在は従来行っていた2か月に1回の運営推進会議の時期に合わせて、利用者の介護度や状況、取り組みの内容について各委員に向けて書面で報告する形をとっている。	運営推進会議は、事業所の抱え込みを防止するためや地域連携の確保等にとって重要な会議であるため、意見を収集するための取り組みや工夫を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつでも連絡があれば協力している。	運営推進会議へ地域包括支援センター職員の参加を中心に 関わりを持っている。その他、行政担当者とはメールでのやりと りを行っているが、特段関わりをもっている事例などは確認でき なかった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組み、研修にも取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染症拡大前には、事業所1Fの玄関を開錠していたが、現在は外部者の訪問管理や感染症予防の観点から施錠を行っている。3か月に1回身体的拘束等適正化対策検討委員会が開催され日々のケアを振り返る取り組みが行われている。現在、身体拘束を行っている事例はない。		

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、徹底防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修が年1回実施され、実施した実績については職員のレポート提出を求めている。不適切な事例がないよう、管理者と職員とのコミュニケーションを大切に、事業所理念に基づいた「風通しのよい」職場環境に向けて取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用できるよう支援している。	過去に、成年後見制度を活用されていた方がいらっしゃったが、現在はいらっしゃらない。事業所玄関には成年後見制度に関するパンフレットが備え付けられ、必要に応じて制度を利用される家族に対して説明できる体制を設けている。また、権利擁護に関する研修は年1回開催している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすいよう説明し、契約終了後も分からない事があればその都度説明するよう努めている。	見学時には「入居の案内」と称した、説明書を基に利用者や家族が不安なことに応じながら、契約書を交わす手順を踏んでいる。また入居に際して、必要に応じて自宅や病院へ利用者の状態確認にうかがうとともに、持ち込み備品等についても説明を行っている。家族に聞いて可能であれば、契約の場に利用者も同席してもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で出た意見等を考慮し反映させている	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、現在家族会は行われていない。家族の意見については、電話連絡を中心に、家族の意見や要望を聞き取っている。アンケートなどの満足度調査は行われてないが、管理者へ家族から直接問い合わせがある内容についてその都度対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で出た意見等を考慮し反映させている	2か月に1回行われる職員会議には、勤務調整を行い可能な限り多くの職員の参加を募っている。年度に1回は全体職員会議が行われ、職員の意見を聞く機会を設けている。備品の購入や業務内容の検討ならびに勤務時間の変更など職員が働きやすくなるよう提案を受け付け、反映された事例が確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いつでも研修を受けれるようにしている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と交流し研修や勉強会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人、家族と何度も話し合い、関係づくりに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から本人、家族と何度も話し合い、関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設に相談に来た場合、当施設にだけにとらわれずその人にあった介護サービスの相談を行っている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事の配膳など個々のADLに合った役割を見つけ手伝ってもらっている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら支援している。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来た場合、家族に相談ののち面会など快く受け入れるようにしている。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、家族との面会や友人知人との馴染みの人との関係継続のための支援の事例は確認できなかった。入居後、事業所が大切にしてきた散歩や買い物などの外出支援についても、コロナ禍によって実施できていない。今後、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、面会や外出等を実施される予定である。	

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が間に入って仲を取り持つようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族から希望があれば相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族から情報を聞き把握できるように努めている。本人に聞けない場合は家族に希望を聞くようになっている。	入居前に利用者本人や家族から情報を聞き取り、アセスメントシートへの記入を行い、利用者の思いや意向を把握している。また、昔の趣味や嗜好品などを療養記録やアセスメントシートに追記し、更新している。また、モニタリング時やアセスメントシートへの記入段階で身体記録や身体の状態の記録を合わせてとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から情報を聞き把握できるように努めている。本人に聞けない場合は家族に希望を聞くようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見のを尊重しながら、介護計画を作成している。	介護計画の見直しならびにモニタリングは、4か月に1回定期的に見直しを行っている。また、サービス担当者会議やモニタリングについては、「目標評価票」と称した書面を用いて、介護支援専門員が介護計画の支援内容に対する確認や支援内容の検討が行われている。介護計画作成時には、職員の意見や家族の意向を集約して作成している。	介護計画の見直しとモニタリングの期間が同じで、モニタリングが評価となっている。新たな計画を作成するために、より細かなモニタリングを行ってはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに日勤は黒で夜勤は赤で記載している。介護計画については4か月に1回見直しを行っている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設に相談に来た場合、当施設にとらわれずにその人にあった介護サービスの相談を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店街へ買い物に出かけたり、地域の行事に参加している。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に2回内科の医師が往診に来ている。なにかあった場合にかかりつけ医と連絡が取れるようにしている。	入居時に、かかりつけ医による診療が受けられるよう、事業所から協力医へ変わってもらう等の働きかけは行なわれていない。月に2回協力医療機関の医師による往診があり、かかりつけ医による受診については、基本的に家族が担当することとなっている。また、希望者のみ月2回の歯科往診が実施されている。状態の変化や急変時には協力医と連絡調整により指示をもらえる体制となっている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際に相談して支援している。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、協力医療機関などと連携を取り、早く退院が出来るよう努めている。	入院に至るケースについては、入院先から情報提供書の提出を求められれば、医療機関へ情報提供書を提出している。コロナ禍においては、医療機関への面会ができないため、早期退院に向けて電話連絡を行い、入院中の利用者の状態確認を行っている。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	事業所の方針として、重度化した場合や終末期ケアについては実施しない方針である。家族や利用者から事業所での看取りを希望された場合においては、可能な限り対応できるよう取り組んでおり、過去には、家族や利用者の希望に沿って事業所で看取りを行った事例がある。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、会議で話し合ったり研修を行っている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害マニュアルを作成し、研修をおこなっている。	火災を想定した避難訓練と自然災害を想定した避難訓練をそれぞれ年1回実施している。事業所の非常災害マニュアルには、津波や豪雨など自然災害を想定したマニュアルも含まれている。地域に向けては協力を依頼するとともに、地域の高齢者などの避難先についても事業所を活用いただけるよう民生委員を通じて、地域へ発信している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者自身の思いやプライドを大切にしながら、押しつけないように声かけを行っている。	プライバシーの確保については、年1回の研修を実施し利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。日々のケア場面である、おむつ交換やトイレ誘導を行う際の声かけについては、共有スペース内で他者に伝わらない声かけをするよう、管理者より指導を行っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いやプライドを大切にしながら、押しつけないように声かけを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前に家族や本人から職歴や好みの生活などについて聞き取りを行っている。出来るだけ本人の希望にそった支援をしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備や更衣等の際できるだけ一緒に衣類を選んで頂き又理髪の際本人が好むスタイルを決めて頂く。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の話題に入りながら一緒に食事を取る。食事の配膳と片付けをできる方に手伝って頂く。	食材宅配サービスを利用し、事業所で調理している。月5～7回は近隣に買い物に行き、焼き魚などリクエストに応じたメニューを調理している。コロナ感染予防のため、昨年からは利用者には配膳・テーブル拭きのみ手伝ってもらっている。以前はクリスマス会や敬老会などでの行事食、おやつ作りも楽しんでいた。今は職員との食事を避け、利用者のみで摂ってもらっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を使用し毎食チェックし、カルテに記入している。水分チェックについては、管理が必要な方のみチェック表を使用している。食事については業者がバランスのとれた食事の材料を持って来るので職員がレシピを見て調理する。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促している。義歯の方は、夜間回収し保管している。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックし、トイレ誘導表を作成。入居者それぞれのタイミングでプライバシーに配慮し声かけやトイレ誘導を行っている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	コートチェック表を作成し、便の出にくい利用者に関しては医師と相談し指示通り下剤を服用して頂いている。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を希望する方には、プライバシーに配慮しフロアを変更して入浴している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来るだけレクや体操に参加して頂き、生活のリズムを作る事で夜間の入眠を促している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書を服薬表に綴じて職員全員が確認できるようにしている。一日の配役は担当者を決め、投薬については名前を呼びながら配薬し、カルテとチェック表で二度確認するようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が季節に合った行事と誕生日会を月ごとに計画し、実施している。商店街が近い為、天気の良い日は散歩などに出かけている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外出を希望された場合は家族と連絡を取り、可能な限り希望通り外出できるよう支援している。	散歩の支援に力を入れ、買い物や家族・友人との外出の機会も多かったが、コロナ禍でこの1年はできなくなった。玄関先のテラスも近隣住民の非難の目があり、思うように活用できない状況である。散髪も理髪店に行っていたが、訪問理容を利用するようになっている。	利用者の筋力低下などの影響も現れている。感染状況を踏まえながら、少しずつ外気に触れ、外出の機会を作ってほしい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かり、必要と判断した際に趣向品を購入したりしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は職員が電話をし、利用者に電話をつなぐようにしている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に合わせた飾り付けを行って季節感を感じて頂く。	廊下の飾り物は、季節感のあるものにしていく。ペーパークラフトのおひなさまが飾られていた。フロアには座れる高さの畳スペースが2か所あり、くつろぐことができる。コロナ対策で新たに空気清浄機を設置することにより、加湿に努め、2時間に1回消毒を行っている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階3階共にソファーや腰を掛けれる場所を作っているのそこで気の合った利用者や話をしたりするスペースを作っている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に出来るだけ利用者の使い慣れた物を持って来て頂くように家族に説明している。	居室の床は、畳調シートが敷かれている。和室のような落ち着いた雰囲気があり、滑りにくい。トイレ・エアコン・ベッド・タンスが備え付けられている。火器・刃物以外、持ち込みに制限はなく、仏壇やソファー、デスクセットなどを持ち込み、それぞれその人らしい居室にしつらえている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	季節に合った飾り付けを行い、部屋の前には分かりやすいように名札を貼っている。		